

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 63 回 基盤応用・廃炉技術専門部会 議事録

1. 日 時：2024年8月1日（木）9：30 ～ 11：20

2. 会議方式：Web 会議

3. 出席者：（敬称略）

（出席委員） 石川(顕)部会長，山路副部会長，湊幹事，石川(智)，大塚，奥野，北島，
黒川，近藤，坂下，佐田，杉山，田中，原，森井，吉田（16 名）

（委員候補） 国分保訓（東京電力ホールディングス），米山健司（日本原子力発電）（2 名）

（説明者） 【廃止措置分科会】西村委員，工藤委員

【放射線遮蔽分科会】奥野幹事，遮蔽材料標準作業会 中田主査（4 名）

（事務局） 大沼，平野（2 名）

4. 配付資料：（議事録末尾に一覧を掲載）

5. 倫理教育（ATC63-講習資料）

湊幹事から資料に基づき，標準委員会での倫理教育の内容について説明があった後，意見交換を行った。

6. 議事内容

事務局から開始時，委員 16 名中，16 名が出席しており，成立に必要な定足数（11 名以上）を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC63-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事（ATC63-2）

事務局から資料に基づき，専門部会，分科会の人事について以下の提案があり，審議の結果，専門部会員の選任，分科会委員の承認等が決議され，委員退任等が確認された。

選任された国分様、米山様からご挨拶をいただいた。

【専門部会】

◆決議事項

(1) 委員選任

国分 保訓	東京電力ホールディングス
米山 健司	日本原子力発電

(2) 委員再任

吉田 啓之	日本原子力研究開発機構	2024.11～2026.10
黒川 登	三菱重工業	2024.12～2026.11
近藤 直樹	三菱総合研究所	2024.12～2026.11
坂下 嘉章	東芝エネルギーシステムズ	2024.12～2026.11

◇確認事項

(1) 委員退任

太田 隆	日本原子力発電	2024.06.30
大塚 康介	電気事業連合会	2024.09.09予定

(2)委員所属変更

大塚 康介

東京電力ホールディングス→電気事業連合会 2024.06.17

【分科会】

○廃止措置分科会

◆承認決議事項

(1)委員選任

米山 健司

日本原子力発電

◇確認事項

(1)委員退任

太田 隆

日本原子力発電

2024.06.30

(3)【報告・審議】(ATC63-3-1~3)

技術レポート“実用発電用原子炉施設の廃止措置における放射線被ばくリスクに応じた耐震クラス設定の考え方”に関する中間報告時のコメントに対応した最終原案について

(担当：廃止措置分科会 杉山幹事，西村委員，工藤委員)

説明者から資料に基づき，中間報告時のコメントに対応した最終原案について説明があり，審議の結果，この最終原案について30日間のコメント受け付け（意見募集）を実施することが決議された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：標準委員会のコメント（農作物の摂取の経路を評価対象外としている件）に対しては，評価対象について判定の仕方は変えず，記載を適正化したということか。

A：標準の規定と誤解されるような記載があったため，本文の記載は考え方にとどめ，解説に付録で示した評価条件に関する考え方を追加することにした。

(4)【報告・審議】(ATC63-4-1~2)

“放射線遮蔽計算に用いる材料組成（コンクリート編）”標準原案に関する中間報告について

(担当：放射線遮蔽分科会 奥野幹事，遮蔽材料標準作業会 中田主査)

説明者から資料に基づき，題記標準原案について中間報告があり，審議の結果，本日の標準原案について30日間の意見募集を実施することが決議された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：地域性が現れない，については，どの地域のもので作ったとしても適正ということか。

A：そのとおり。骨材の各元素を，調合を変えずに酸化物の形でSiまたはCaに置き換えることで，地域依存の元素の偏りが出ないようにした。

Q：ケイ素系とカルシウム系の密度の数値が同じだが。

A：同じ調合としたので，密度も同一となった。

Q：水分を60年後としているのは，打設直後から水分が抜けていくことの考慮か。

A：そのとおり。コンクリート中には結合水と自由水があり，移動する自由水について，原子炉施設の原子炉遮蔽の環境条件で，60年間曝露した時の水分移動を解析した。壁厚が厚いほど在留する水分が多いため，壁厚依存で与えている。

Q：ケイ素系の方が安全側か。

A：ケイ素の方が，カルシウムより中性子吸収が小さいので，ケイ素系組成の方が，安全側となる。

Q：従来の米国のデータとの比較は。

A：附属書Cに記載するが，30%程度の保守性がある。

Q：従来の米国の場合が非保守的ということにならないか。

A：ANL-6443、5800の組成は，使用された実績が長いデータであり，不当な結果は与えない。規定組成はそれらより保守的の結果を与えるが，200cm透過位置で，39-40%程度の差異である。厳密には必要遮へい厚は従来の米国の組成より大きくなるが，施工

に係る補正など他の要因を考慮すると、ANL 組成に対し影響のない変動である。
C：遮蔽計算条件の保守性を考えると。影響ないということか。
A：そのとおり。

(5) 【報告】 (ATC63-5)

分科会活動状況について

(担当：各分科会代表者等の関係者)

各分科会から資料に基づき、活動状況が説明された。

特に質疑、コメント等は無かった。

6 その他

(1) 事務局から次の連絡があった。

・ JIS Z 4001 が廃止方向であり、これを引用している標準は対応が必要となるが、現在、標準活動基本戦略タスクでその対応について検討中である。

(2) 今後の予定

次回は、2024 年 11 月 1 日（金）9：30 から開催で決定した。

【配付資料】

ATC63-0	第 63 回基盤応用・廃炉技術専門部会議事次第
ATC63-1	第 62 回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録（案）
ATC63-2	人事について（案）
ATC63-3-1	“実用発電用原子炉施設の廃止措置における放射線被ばくリスクに応じた耐震クラス設定の考え方” 耐震安全技術レポート 最終報告
ATC63-3-2	耐震安全技術レポート（本文）（新旧比較表）
ATC63-4-1	「放射線遮蔽計算に用いる材料組成（コンクリート編）」（案）中間報告
ATC63-4-2	（標準）240801_放射線遮蔽計算に用いる材料組成（コンクリート編）（案） 本体・附属書 A-D
ATC63-5	分科会の活動状況について（2024 年 7 月 18 日時点）

講習資料

ATC63-講習資料(1) 組織文化と個人の行動に関するトピックスと課題

ATC63-講習資料(2) 標準委員会の倫理教育において Google Form で収集したご意見・質問リスト

参考資料

ATC63-参考 1 基盤応用・廃炉技術専門部会委員名簿

ATC63-参考 2 基盤応用・廃炉技術専門部会出席実績

以上